

には、リンクがあります。 は、WAMNETの事業者情報にリンクします。

事業所名	グループホーム 多聞
日付	平成17年3月31日
	特定非営利活動法人
評価機関名	高齢者と痴人の人のケアを大切にす会 LIFE SUPPORT推進グループ
	評価調査員 在宅介護経験15年
	評価調査員 在宅介護経験16年
	評価調査員 在宅介護経験8年
	評価調査員 在宅介護経験11年
自主評価結果を見る	
評価項目の内容を見る	
事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)	

外部評価の結果

講評	
全体を通して(特に良いと思われる点など) 男女の利用者が半々居て、昔の小学校の仲間のように元気はつらつ明るい雰囲気、各人の経験や能力、そして個性を生かして共同生活をしている理想的なグループホームである。そして利用者が主役であり、職員が影で支えている関係が自然に生活の中に溶け込んでおり、利用者も職員も一緒に活き活きと楽しく過している。 「散歩にいっぞ、お前も行くぞ！」と誘い合って町中に散歩に出掛ける。リハビリにもみんな揃って病院のリハビリセンターに通う。利用者が弱い利用者を優しくいたわり、励まし合って動かし出させたり、風船遊びをして、かなりの運動を利用者同志で賑やかに続けている。このような自然な生活をさせ、陰できちんと見守り、自分の出来る事をしっかりさせている管理者や職員は素晴らしいと思った。 「家事を手伝う人」「自分のことをしている人」「大きな声で仲間と喋っている人」「新聞広告で勉強している人」「折込広告の中から」Rの新しい時間表を探して、まだ取り替えていないと職員に注意する人、みんな好きずきに色々なことをしているが、昼食がテーブルに揃うまで待って「いただきます」の挨拶で全員が一緒に食事を始める習慣があった。 高齢化社会の地域ケアのあり方をこのグループホームの生活で実践している姿を見て貰った。	
特に改善の余地があると思われる点	次のような提案をした
日常、利用者同志でよく喋っている人達なので、お互いの昔の良かったこと、苦しかったこと等、写真や本など用意して、もっと話題を広めていく雰囲気になると、更に元気になってくれるのではないかと思う。 菓の管理は事務所などで手に触れない所で保管して貰いたい。 個人の生活記録の記入方法を工夫して欲しい。 職員の申し送り手順を確立して、記入や確認をしっかりして欲しい。 このような素晴らしい生活を、「たより」等にして家族に知らせ、家族との連携を深め家族の要望も引き出す仕掛けをして欲しい。	

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にされた整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物物の支援		
23	痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か 男性と女性の数が凡そ同数居る生活の場合は、すぐ家庭的な雰囲気づくり出し、利用者同志が自分達で助け合って暮らしているんだと思わせる存在感がある。 特に認知症の進んだ利用者が歩き回って人の部屋に入ったり、テレビの邪魔をしているのを、別の利用者が注意したり、気持ちを和らげ、他に気をそらせる行為をして、落ち着かせている様子を現実に見せて貰った。拍手を送りたい気持ちで素晴らしい光景だった。又、「室内の寄せ植えの水遣り役」「食事開始の挨拶をするリーダー役」「先生役」等経験と個性を生かして役割を分担して貰っている。 パーキンソン病で歩行困難な人には歩行者と階段のスリッパ止めを使って一寸でも足をあげて歩行するリハビリを繰り返している。 これらを職員は全体として補っていると同時に、一つ一つのケアも確実にしているが、利用者を見守っていると言う事を感じさせないことに感心する。		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31			
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。 利用者一人ひとりの持っている能力を生かして、グループホームでの生活を支えている職員の取り組みを見逃す事は出来ない。 「力がなくて歩けなかった人が、仲間の叱咤激励で少しずつ歩けるようになった」「夜何回でも尿意があつて職員を呼んだ人が、夜も落ち着いて過せるようになった」「歩き回ったりする利用者が落ち着いて生活できるようになった」等入所してから症状が改善していることも職員のケアの実績である。 今後利用者の症状が進んで、今まで出来ていたことが出来なくなる時もあるであろう。その時も本人が関心を持ち続けられ、喜びを感じられるような工夫をして支援を続けて欲しい。		

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か グループホームで作った枠にはめるのではなく、利用者がしたい事をいつでも出来るよう、又利用者同志が楽しく助け合って生活出来るように、必要なことだけを支援している職員の姿を見て貰った。 職員が明るく自然に接する態度で、利用者は何でも言える雰囲気を作り、希望や気持ちを表せるよう務め、その気持ちを大切にしようとしている。このグループホームで利用者と付き合ってみて、しみじみと「生活から滲み出て来る気持ち」に接することが出来た。		

生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か 敷地に制約があり、庭などは作れないが、リビングに坪庭や観葉植物などがあり、室内で楽しめるよう工夫されている。個室には、一人ひとりの思い出の写真や品物があり、安心感を増している。 厨房も広く、調理し易く利用者も参加している。吹き抜けの周りに畳敷きの腰掛があり、気分転換が出来る。リビングルームの床暖房は気持ち良く過せる。 このような環境下で、利用者はリビングルームで過ごすことが多い。		

ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人でできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		